

株式会社タチエス 2023 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

実施日時：2022 年 11 月 25 日 17:00~18:00

【上半期業績の評価について】

Q1. 自社としての評価は？

A1. 社内の期待値からは下方となりました。大きな要因としては生産台数の減少。半導体の影響はもう少し緩和されると予想していた。絶対数量の減少もさる事ながら、OEM の内示からの台数変動が大きくコスト増となった。これに加え、市況変動等対応ためのコスト増加もありこれらが合理化効果を上回ってしまった。

【通期予測について】

Q2. OEM は台数予測を下げているが、下半期の内示と自社における予測はどうとらえているか？

A2. 上半期より増加すると予測しています。また、半導体の影響等の生産変動リスクも考慮した上で業績を据え置いています。変化に対するスピーディーなマネジメントと共にお客様とのコミュニケーションを進めていきます。

【原材料費の転嫁について】

Q3. OEM への原材料価格の転嫁に対する交渉状況は？

A3. 既報道の通り OEM 各社は原材料の高騰対応コストを事業計画に反映されております。弊社は原材料・物流費の高騰のみでなく、インフレ、為替変動、突然の生産計画変動に伴う固定費の増加の影響について相談させていただいております。各 OEM には真摯に対応頂いております。私共も生産活動をリーンにすることに努め、引き続き合理化を推進して参ります。

【収益構造の改善について】

Q4. JIT 工場はどこ向けの拠点を削減したのか？その背景は？また 25 年以降に向けて減らさなければいけない拠点はありますか？

A4. 平塚工場を閉鎖しました。日産車体様 湘南工場向けになります。背景は関東圏での工場稼働率が約 50%に留まっていた為、再編により関東圏の拠点の稼働率向上を図りました。この再編は、受注状況には関係がなく、平塚工場の事業を他の工場に移管する形で進めました。
24 年に向けては、一層の工場の集約を計画しています。空いた工場は閉鎖するのではなく関係会社などに入って新しいビジネス獲得の拠点としても活用する計画です。

【トヨタ紡織との協業について】

Q5. トヨタ紡織とのシナジー効果のある取組はありますか？統合 ECU はトヨタ紡織と進めているのか？

A5. 統合 ECU の開発はトヨタ紡織様とはなく他社との協業になります。

トヨタ紡織様とは 2017 年からアライアンスを組んでおり、本年で 5 年目となります。

部品の共用化、拠点の相互活用を主体に協業を進めてまいりました。成果物としては共同開発した機構部品のアセアン地域の車種への採用が決定した他、トリムカバーの生産委託を受けるという形で拠点活用を進めてきております。今後は部品種類の範囲の拡大や工場の相互活用のみでなく物流面でも協業できる様、検討を進めております。

【モノづくり競争力の強化について】

Q6. 海外生産品の生産拠点の再検討について、何をどこにいつぐらいの時期で移管するのか？また、日本へ移管するメリットはどのようなものがあるのか？

A6. シートを構成する部品は集中生産してグローバルに供給ということで競争力確保を図ってきましたが、中国から供給しているトリムカバーや FRM 部品の一部を日本の工場に生産の移管を図っています。すでに一部のトリムカバーで移管を行っています。効果としてはブリッジ生産出来るようになり、為替や各拠点の生産能力の状況を踏まえ生産量をコントロールすることで競争力を維持できる体制が整います。